

○4番 遠藤優奈君

長峡中学校1年、遠藤優奈です。私は、多目的トイレをもっと多くの人が使えるような取り組みについて、質問いたします。

私は、多目的トイレの見直しを提案いたします。例えば容姿が女性でも心が男性だと、女性用トイレに入りづらいと思います。反対に男性でも心が女性だと、女性用のトイレには入りづらいと思います。子連れの人やオムツなどを替えたりして長時間利用することが多く、車いすの人やたくさんの方が待つことになるので、誰もが利用しやすいトイレがたくさんあるといいと思いますが、どう思われますでしょうか。

○議長 白橋陽那君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

遠藤議員の御質問にお答えいたします。非常に重要な視点だと思っております。

まず、多目的トイレについて、お話をさせていただきたいと思いますが、この多目的トイレは、もともとは、身体に障がいのある方が利用しやすいトイレということで、まずスタートしたということですが、それから身体の障がいだけでなく、知的障がいのある方や、トイレが使用できないために外出できなかった重度の障がいのある方、また幼児連れ、赤ちゃんを連れている親子の方や、高齢者や成人に達した異性の子どもの介助を必要とする親子の方など、様々な方が、いつでも利用できるトイレということで徐々に変化していった経緯がございます。

しかし、一方で、多目的トイレが多機能トイレとよばれるように、例えば大型ベッドがあったりオストメイト対応ができたり、それから幼児用小便器やベビーチェア等、いろいろな機能が増えていったことで、それらの機能を必要とする利用者が、この多目的トイレに集中するという現象が、いま現在起こっております。これは非常に課題であると考えております。

議員おっしゃるとおり、誰もが利用しやすいトイレの考え方の一つとして、多目的トイレがたくさん確かにあるといいのですが、この多目的トイレというのは、一般のトイレに比べ、つくるのに費用もかかりますし、また場所もとるわけでありまして。そこで最近では、先ほど申し上げました幼児用の便器やベビーチェア、こういったものを多目的トイレから一旦外して、いわゆる普通のトイレ、一般的に使われるトイレに移動する、分散させることで、多目的トイレの数を増やさなくても、利用者を分散させることにより、誰もが利用しやすいトイレ環境につなげていく、整備していくという流れがございます。

行橋市といたしましても、今後さらに誰もが利用しやすいトイレを調査して研究して検討していきたいと思っております。以上です。

○議長 白橋陽那君

遠藤議員。

○4番 遠藤優奈君

御回答、ありがとうございました。多目的トイレを増やすだけでなく、利用する人にとって必要な機能がある一般のトイレを増やすことで、誰もが利用しやすいトイレに近づくことが分かりました。

そこで再質問いたします。最初の質問でお答えした容姿と心が異なるトランスジェンダーの方は、男女別のトイレには入りづらく、多目的トイレを利用せざるを得ない状況があると聞いています。男女別トイレの横に多目的トイレほど広くなく、コンビニにあるような男女兼用のトイレがあれば、トランスジェンダーの方も利用しやすくなるのではないかと思います。どう思われますでしょうか。

○議長 白橋陽那君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えいたします。トランスジェンダーの方が、性自認にそぐわないトイレの利用を余儀なくされていることは、非常にこれは大きな課題であると思っております。トランスジェンダーの方々がストレスを感じないように程よい広さの男女共用の個室トイレの要望があるということも認識をしている次第であります。

例えば、先進的な事例として、これは多くのニュースでも取り上げられたわけですが、世界最高のユニバーサルデザインを基本理念として新国立競技場が建設されました。これは観客席や移動空間などの議論とともに、使いたい人が気兼ねなく使えるトイレ環境についてもしっかりと議論がなされ、その中で男女共用トイレが実際に設置されております。ちなみに非常に大きな競技場ですから、男性用の小大便器が合計で1027あるようです。そして女子用の大便器が933あるとのこと。そしてLGBTQなどのトランスジェンダーの方や障がいのある方向けの、これは通称、アクセシブルトイレという言い方をするようなんですけれども、いわゆるいろんな方が利用しやすいトイレですね。これが93箇所設置されているとのことでございます。

これらのトイレは、トイレを利用する人は多様である、いろんな方々がいることを理解の上に、男女別のトイレからその人にとって必要な設備が自由に選べる多様なトイレに変化しております。

遠藤議員の誰もが利用しやすいトイレの考え方は、大変重要であると思っております。これは広さやコスト、お金の部分との相談も出てきますけれども、やはりこの視点、本当に重要だと思っておりますので、引き続き、行橋市のほうでも先ほども申しあげましたけれ

ども、調査・研究を行って検討してまいりたいと思っています。以上です。

○議長 白橋陽那君

遠藤議員。

○4番 遠藤優奈君

ありがとうございました。本日は、私の知らなかったこともたくさん学ぶことができ、貴重な経験をすることができました。ありがとうございました。

以上で質問を終わります。